

# 第3学年 国語科学習指導案

1組 計28人(男子14人,女子14人)

指導者 豊重真奈美

## 1 単元 「大事なことをたしかめよう」

(教材「すがたをかえる大豆」「食べ物がかせになろう」光村3年下)

## 2 単元について

### (1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、教材「ありの行列」で、段落について知り、段落ごとに書かれている内容をとらえる学習を行ってきている。また、「おもしろいもの、見つけた」で、事柄ごとに段落に分けて書くことも学んできている。

そこで、これまでの学習を生かし、大豆の加工法を紹介した教材文を通して、段落やキーワードなどに注意しながら内容を読み取り、疑問や興味をもった食べ物について情報を収集、整理し、文章にまとめることをねらいとして本単元を設定した。

教材「すがたをかえる大豆」は、身近な大豆やその加工品について書かれた説明的文章である。食材としての大豆は、子どもたちが毎日のように口にしている身近なものである。しかし、見ただけでは大豆からできているとは気付かないものも多く、子どもたちに意外性をもって知ることに喜びを与え、読み進められる内容である。文章構成は、「ありの行列」のような仮説・検証型とは異なり、初めに説明する対象物を提示し、それについての説明を施すという解説型になっている。段落構成や中心となる文、キーワードが明確であるとともに、接続語が多く使われているため、読み取りやすい教材であるといえる。

本単元で子どもたちは、「くふう」「すがた」等の言葉を手がかりに、大豆が様々な食品へと変化をとげていくことが分かる語や文に目を向け、比べながら読んだり、「次に」「また」などの接続語の働きによって、論理の展開をとらえたりすることができる。その中で、大豆を様々な姿に変えていく事例にふれ、筆者の考えである「昔の人々の知恵」に共感することができる。また、興味をもった食べ物について、本を使って調べることで、必要な情報を適切に収集、選択する初歩的な力を育てることができる。さらに、教材文の文章構成を参考にして、食材が姿を変える解説文を書き、感想を交流し合うことで、友達の表現のよさに目を向け、自分の表現に生かそうとする態度を育てることもできる。

ここでの学習は、4年生での、各段落の内容とそのつながりを考えながら読み、「はじめ」「中」「終わり」の大きなまとまりの内容や役割をとらえる学習へと発展していく。また、今後、国語科の学習だけでなく、総合的な学習の時間等、情報活用の基礎となる力を育成するためにも重要な学習である。

### (2) 単元の目標

身近な食べ物について興味をもち、その不思議さや驚きを発見しながら、「食べ物シリーズの本」を読もうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】

興味をもった身近な食べ物について調べたことを、カードに書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書くことができる。 【書く能力】

大豆が姿を変えることについて、中心になる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読むことができる。 【読む能力】

文章全体の組み立てを考え、段落の役割を意識しながら読んだり書いたりすることができる。 【言語についての知識・理解・技能】

### (3) 子どもの実態

#### ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、意欲的に学習に取り組んでいる。話し合いについては、小グループの中では、司会をしたり、発表者になったりすることを好む子どもが多く、自分の考えを自由に言える雰囲気である。グループ内で相互評価も取り入れ、評価の観点を示すことで、友達のよ

さや自己の読みの成長を感じる交流を図ることができるようになってきている。しかしながら、大勢の中や改まった場になると、萎縮してしまう子どもも少なくない。また、重要な語句や文にサイドラインを引いたり、書き込みをしたりするなど書く活動も適時取り入れているが、書くことへ抵抗を示す子どもたちも見られる。

イ 本単元の内容に関わる実態

段落の意味を理解しているか。
理解している 20名 十分にできない 8名(内：番号を正しく付けられる6名)
順序を表す言葉に着目して、文を並べ替えられるか。
正しくできる 21名 十分にできない 7名
問いの文を探ることができるか。
探することができる 24名 十分にできない 4名
大豆からできる加工品を知っているか。
納豆 16名 とうふ 5名 しょうゆ 3名 豆乳 2名 みそ 2名 きなこ 1名

説明的文章の「問い」「問題提起」の文は、ほぼ全員が見つけることができる。また、これまでに、順序や時間の経過が分かる言葉に着目した読み取りも進めてきた。そのため、これらのことを意識した読み取りの方法を多くの子どもたちが適切にできている。段落については、言葉でうまく説明できないまでも、視覚的には理解しており、ほぼ全員の子どものが形式段落に自力で番号をふることができる。また、小見出しまではつけられないが、全員で読み進めると、段落ごとの大体の内容は理解できるようになってきている。本単元に関する内容については、大豆でできた食べ物をあまり知らず、断片的な知識にとどまっており、初めて知ることが多いことが予想される。よって、大豆の実物を見たり、手に触れたりしている子どもは、少ないのではないかと思われる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人の「学び」が生きるように、以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」場面では、教材「ありの行列」をプレ教材として提示し、段落構成や接続語、まとめの文などを想起できるようにする。そして、いつでも本単元の学習に生かすことができるようにする。また、大豆の実物や加工品に触れることで、教材文に興味、関心をもつことができるようにする。さらに、身の回りの食べ物に目を向け、「へんしん！食べ物大会」を開くために本を作るという言語活動を設定し、目的意識をもって読み進められるようにする。

「深める」場面では、「くふう」と「すがた」、「手のくわえ方」を読みの視点として読み進めることで、大豆が様々に姿を変えていくことをとらえることができるようにする。その際、写真や挿絵も活用し、本文と対応させながら読みの理解を深めることができるようにする。また、接続語にも着目し、サイドラインを引かせたり短文作りを行ったりすることなどを通して、日常の中で活用できるようにする。さらに、読み取ったことをグループで発表し合うことで、読みを確かなものにさせていきたい。そして、自分の学習を振り返る活動を取り入れることで、自己の変容を自覚させたり、次の学習の目的をもたせたりしていきたい。

「味わう・高める」場面では、教材文の「学び」を整理させるために全員で「すがたをかえる米（自作）」という共通資料を使って、文章構成を確認できるようにする。さらに、集めた情報を文章にまとめる手引き書を準備し、自分の選んだ食材の情報を文章にまとめる学習に移れない子どもが参考にできるようにする。また、調べたことを整理する際には、調べたことを付箋紙に書き込ませる。そして、それを自由に動かしながら文の構成を思考できるようにする。

「まとめる・広げる」場面では、「へんしん！食べ物大会」を開き、書いた文章を読み合い、感想を交流し合うことで、友達や自分の表現のよさに気づき、今後の自分の表現に生かすことができるようにする。その際、文章で工夫している点や感想を付箋紙に記入し、貼り合うことで、互いのよさを認め、高める場とする。また、作った文章を本にまとめ、図書室に置くことで本作りのおもしろさを感じることができるようにする。

4 指導計画（全17時間）

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つ か む	2  (本時1/2)	1 教材文の「はじめ」の部分と大豆の実物とを重ね合わせて読み、なぜ、大豆はいろいろな食品に姿を変えるのか話し合う。	<b>プレ教材「ありの行列」の文章を使って、説明的文章で身に付けておくべき内容と方法を確認できるようにする。</b> 大豆の実物に触れさせ、大豆の姿を変える必然性をとらえさせながら、学習への意欲を高めることができるようにする。
		2 「すがたをかえる大豆」の全文を読み、単元の学習課題をつかむ。 学習計画を立てる。 新出漢字の書き取りや難語句の意味を調べる。	大豆がなぜ姿を変えるのか考えながらはじめの部分を読み、これからの学習を見通しているか。 (発表・観察)【国語への関心・意欲・態度】
深 め る	5	「へんしん！食べ物大会」にむけて、食べ物の本を作ろう。	自分の興味をもった食べ物を詳しく調べ、文章にまとめ、食べ物の本を作ることを知らせることで、学習の見通しがもてるようにする。
		3 「すがたをかえる大豆」を読み、大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。 大豆の食べ方、おいしく食べる工夫と食品 大豆に人が手を加えるとすがたをかえる 【いる】【煮る】【ひく】 【すりつぶす】【絞り出す】	写真資料と大豆をおいしく食べる工夫を対応させ読み取ることができるようにする。 <b>繰り返し出てくるキーワード「くふう」を手がかりに手の加え方や具体的な食品名を読み取り、まとめることができるようにする。</b>
味高 わめ うる	8	4 文章構成を確かめ、「はじめ」「中」「終わり」の3つの大きなまとまりに分ける。	大豆が姿を変えることについて、中心になる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読むことができたか。 (ワークシート・発表)【読む能力】
		5 「食べ物はかせになろう」を読み、本作りの準備をする。 どの食べ物について調べるかを決め、本作りまでの計画を立てる。 本を使った調べ方を知る。 目的に合った図書資料を探す。 本で調べたことや調べて分かったことなどを付箋紙にまとめる。 付箋紙に書かれた文章を並べ替えながら、順序や段落を決定していく。 清書する。	<b>既習の「ありの行列」を想起させることで、文章構成に気付くことができるようにする。</b> <b>「学び」を整理させるために「すがたをかえる(自作)」を準備し、文章構成を確認できるようにする。</b> 調べたいものが決まらない子どもには、いくつかの食べ物の例を提示し、そこから選択できるようにする。また、食べ物の「工夫」「すがた」「手の加え方」の視点を与えることで情報収集や選択がスムーズにできるようにする。 書く順番や段落を決める際に、1つの情報を1枚の付箋紙に書き、内容ごとにまとめ、並びかえることができるようにする。
ま と げ め る	2	6 「へんしん！食べ物大会」を開く。 完成した本を読み合い、段落やまとめ方に着目しながら、感想を述べ合う。	興味をもった身近な食べ物について調べたことを、カードに書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書くことができるか。(観察・カード・作品)【書く能力】  文章全体の組み立てを考え、段落の役割を意識しながら書くことができたか。 (観察・作品)【言語についての知識・理解・技能】 <b>書いた文章を読み合い感想を交流することで、友達の表現のよさに目を向け、今後の自分の表現に生かすことができるようにする。また、学習の成果を実感し、自分の成長や課題を確認できるようにする。</b>

5 本 時 ( 1 / 1 7 )

(1) 目 標 なぜ，大豆が，いろいろな食品に姿を変えるのか話し合い，これからの読みの視点をもつことができる。

(2) 展 開 教師の言葉掛け  予想される子どもの反応  重点評価項目  は個に応じた指導

過程	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
つ か む (7)	<p>1 題名からどんなことが書いてあるか考える。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">「すがたをかえる」の「すがたをかえる」とは，ということなのか考えましょう。</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">他のものにかわることだと思えます。何か他のものに変身することだと思えます。</span></p> <p>2 いくつかの加工品を見て，何が変わったものか考える。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">ここにある食べ物は，何が変わって作られたものでしょう。</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">イチゴが，変身しているから，「すがたをかえるイチゴ」だね。豆腐は 大豆が変身したものなのか。じゃあ「すがたをかえる大豆」だね。</span></p> <p>3 本時の学習課題を確認する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">いろいろな食べ物は，なぜ，すがたをかえるのだろうか。</span></p>	<p>「すがたをかえる」とはどういうことを考えさせることで，文章の内容を想像させ，教材文に興味をもたせることができるようにする。                  いくつかの加工品を見せることで，何から作られているのかに興味をもち，本時の学習に意欲をもって取り組むことができるようにする。また，大豆から作られた食べ物を提示することで，大豆の変身の驚きや疑問から，学習課題へとつなげていけるようにする。                  「ありの行列」の教材文を掲示し，段落構成や文章構成など，これまでの学習内容や方法が確認できるようにする。                  「大豆」「すがたをかえている」等の言葉に着目し，大豆の実物と比較させることで，大豆とは何か知り，どのような食品に姿を変えるのか興味をもつことができるようにする。</p>
深 め る (20)	<p>4 教材文「すがたをかえる大豆」の「はじめ」の部分を読み，大豆がどうして姿を変えるのか発表する。                  (1) 全員で，教材文を音読する。                  (2) 姿を変えるわけを読み取る。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">どうして，姿を変えるのかな。</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">大豆は，硬いから食べにくく，消化もよくないから。</span></p> <p> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">本物の大豆をしっかりとさわってみましょう。大豆の硬さは，どれくらいかな。</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">力を入れると，指が痛くなる。噛むと歯が折れそうなくらい硬い。だから，姿を変えないと食べられないんだね。</span></p>	<p>大豆が，姿を変える必然性を読み取り，次時からの読みの視点をもって，教材文や大豆に触れているか。                  (発表・観察)【読むこと】                  大豆が，なぜ姿を変えるのか，教材文からなかなか見つけられない子ども                  大豆の実物にじっくりと触れさせ，「硬い」という感想をもたせることで，教材文と結びつけて考えることができるようにする。                  大豆以外の姿を変える食べ物が，教材文の中に示されていることを見つけ，実物に触れることで，大豆と同じようにおいしく食べるために姿を変えていることに気付くことができるようにする。</p>
味高 わめ うる (8)	<p>5 大豆以外に，姿を変える食べ物にはどんなものがあるか話し合う。  <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 2px;">姿を変えているものが他にもあるよ。「ごはんになる米」「パンやめん類になる麦」と書いてある。米や麦も硬いから，姿を変えて食べやすくしているのかな。</span></p>	<p>大豆以外の姿を変える食べ物が，教材文の中に示されていることを見つけ，実物に触れることで，大豆と同じようにおいしく食べるために姿を変えていることに気付くことができるようにする。</p>
ま広 とげ める (10)	<p>6 本時の学習を振り返り，学習のまとめをする。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">大豆は，そのままでは硬いので食べにくく，消化もよくないので，食べやすくするために，いろいろ手をくわえて，おいしく食べるくふうをしている。</span></p> <p>7 次時の学習を確認する。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">大豆をおいしく食べるための工夫を勉強したら，単元の最後でどんな活動をしてまとめたいですか。次の時間に詳しく計画を立てていきましょう。</span></p>	<p>教材文の「すがたをかえる大豆」を学習した後，どのような言語活動をしたいか触れることで，単元の学習課題へつなげられるようにする。また，今後の学習の進め方を知らせることで，学習への見通しをもって取り組むことができるようにする。</p>